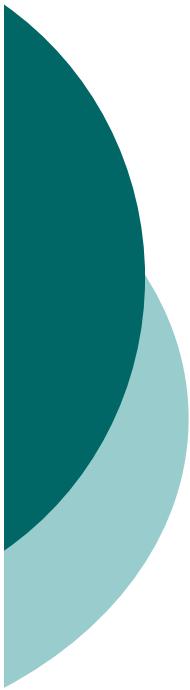




岡山県における性感染症調査

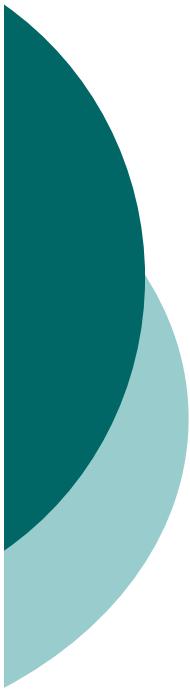
岡山大学産科・婦人科
菊池由加子 平松祐司

日本産婦人科医会岡山県支部
丹羽国泰



1. 調査方法

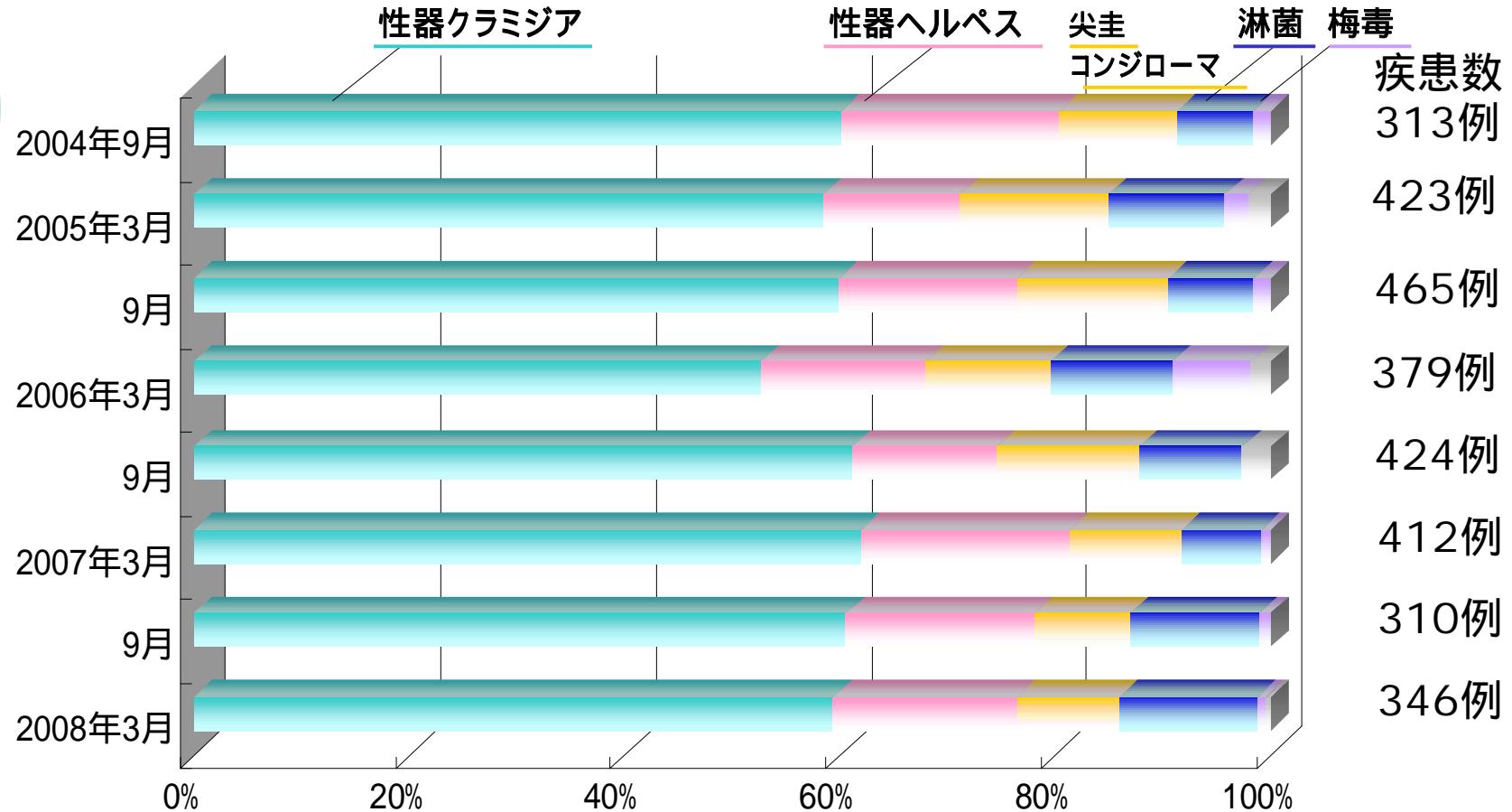
- 対象疾患
性器クラミジア感染症，性器ヘルペスウイルス感染症，尖圭コンジローマ，淋菌感染症，梅毒の5疾患
- 調査項目
年齢，疾患名，妊娠の有無，職業
- 方法
日本産科婦人科学会岡山地方部会事務局(岡山大学)から，岡山県内の全産婦人科施設に依頼文と集計用紙を送付し，年2回定点調査月と同様の3月,9月に調査し，集計用紙は事務局に返送してもらい集計した。
- 調査期間
2004年9月～2008年3月までの計8回



調査協力医療機関(111施設)

- 岡山大学医学部歯学部附属病院
- 岡山赤十字病院
- 川崎医大附属川崎病院
- 倉敷中央病院
- 岡山市立市民病院
- 倉敷平成病院
- 倉敷市立児島市民病院
- 津山中央病院
- 赤堀病院
- 丹羽病院
- ペリネイト母と子病院
- 同サテライトクリニック
- 水島協同病院
- 光井病院
- 浅桐産婦人科
- 石井医院
- 石川産婦人科医院
- 井上医院
- 井上産婦人科クリニック
- 岡崎産婦人科医院
- 岡山二人クリニック
- 尾島クリニック
- 小高産婦人科医院
- 片山医院
- 近藤産婦人科
- 西条レディスクリニック
- さくらクリニック
- 佐藤医院
- サン・クリニック
- 谷口レディスクリニック
- 西沢医院
- 橘産婦人科医院
- 中村産婦人科
- 名越産婦人科
- 福田産婦人科
- 三宅医院
- 山崎産婦人科医院

2. 疾患の割合の変化

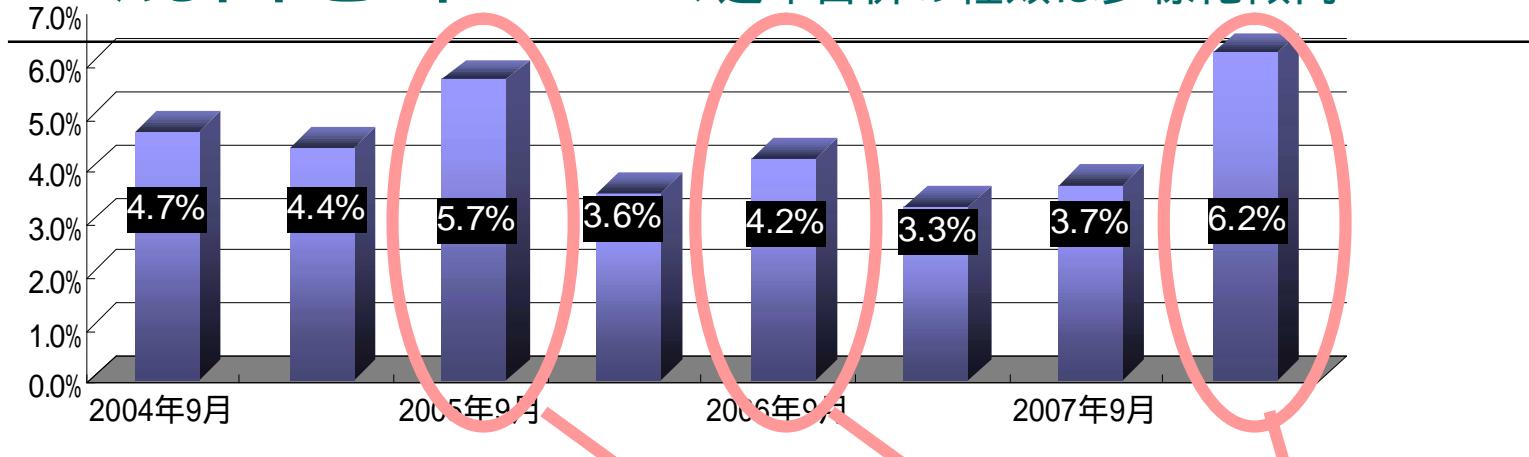


- ◆ 毎年、最多疾患は性器クラミジア、次いで性器ヘルペスの傾向は変化なし
- ◆ 近年淋菌感染症が増加傾向にある

内訳

3.混合感染

- ◆混合感染率は全体の3~6%
- ◆近年合併の種類は多様化傾向

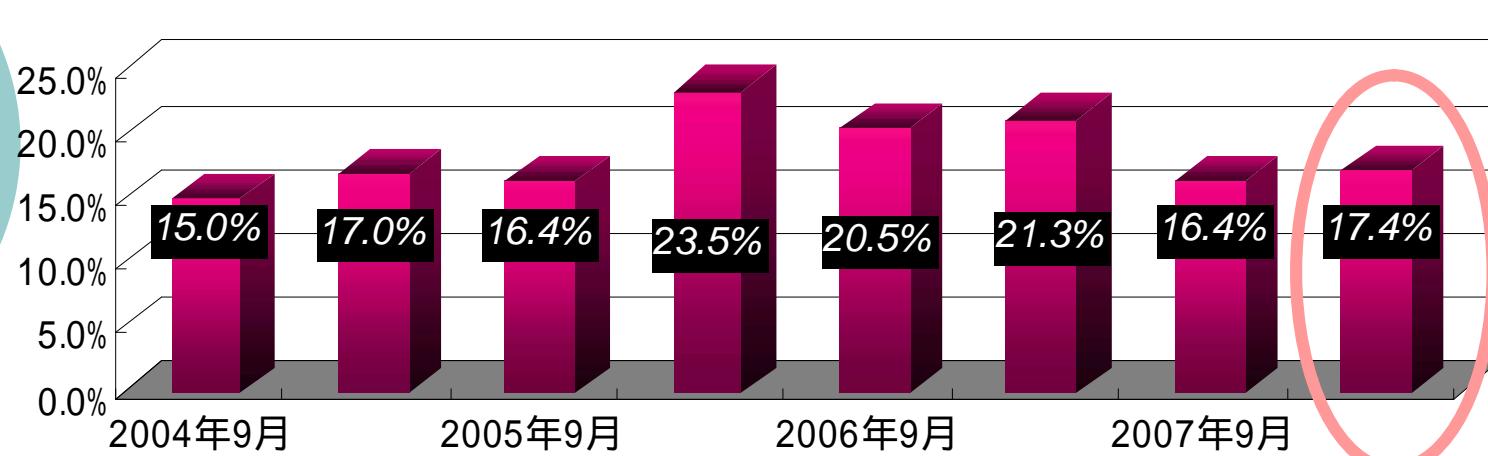


	2005.9	2006.9	2008.3
クラミジア + 淋菌	9例(36%)	10例(58.8%)	13例(65%)
+ コンジローマ	7例(28%)	3例(17.6%)	3例(15%)
+ ヘルペス	3例(12%)	-	-
+ 梅毒	3例(12%)	-	-
ヘルペス + 淋菌	1例(4%)	-	-
+ コンジローマ	2例(8%)	2例(11.8%)	-
クラミジア + 淋菌 + ヘルペス	-	1例(5.9%)	-
+ 淋菌 + コンジローマ	-	1例(5.9%)	-
+ ヘルペス + コンジローマ	-	-	4例(20%)

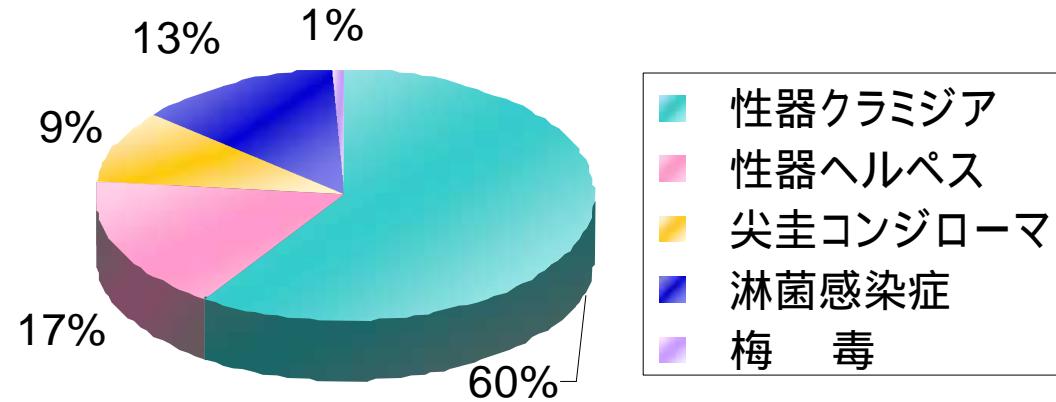


4. 妊娠合併例

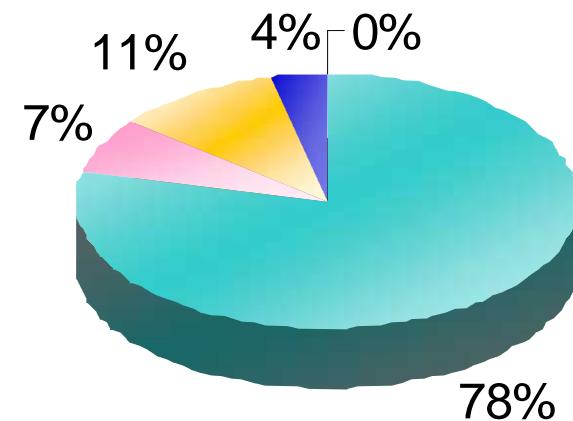
- ◆妊娠合併例は全体の約2割
- ◆妊娠例では性器クラミジアの割合が特に高い



2008年3月 全体 346例

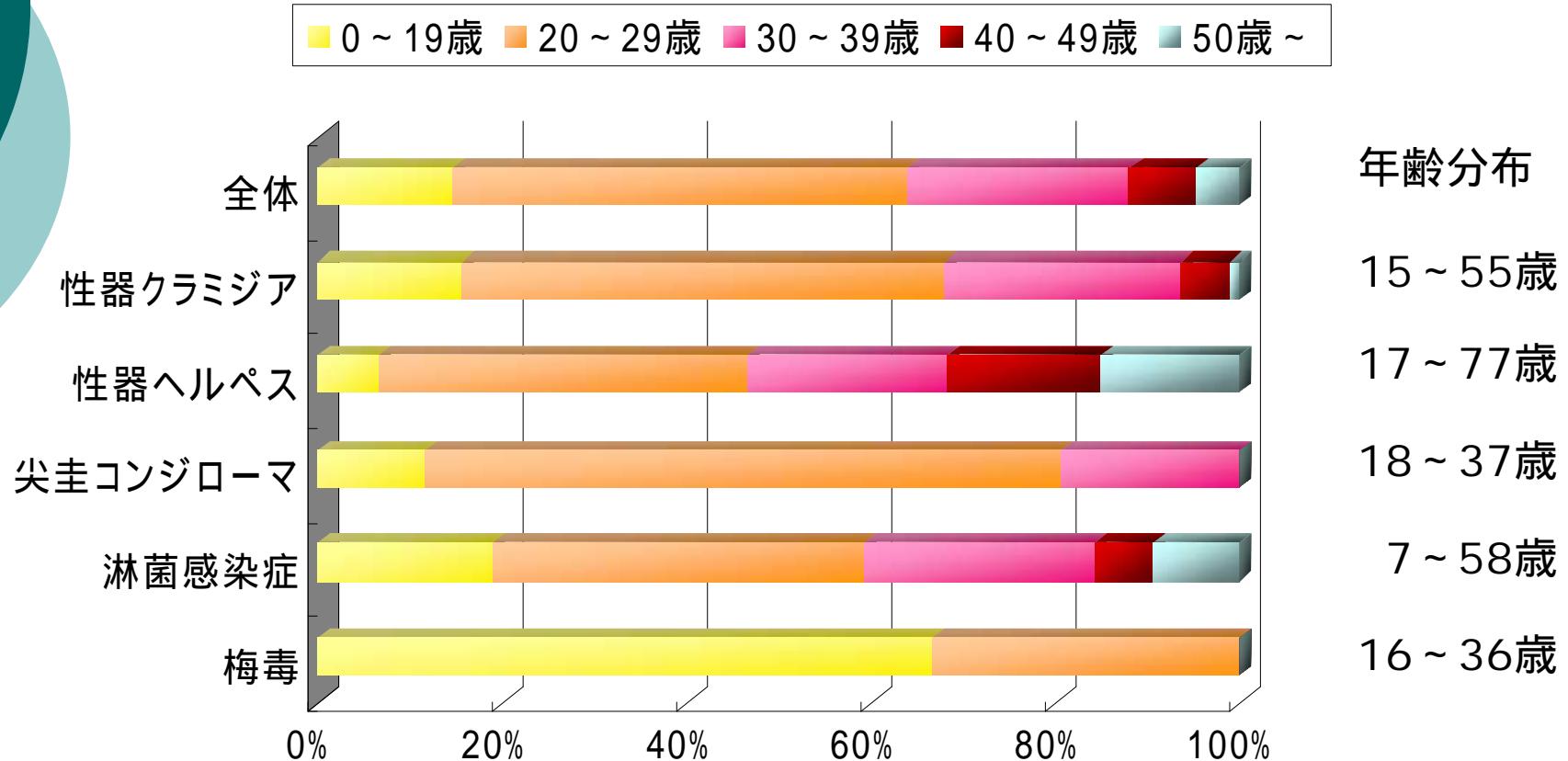


妊娠合併 56例



5.年齢

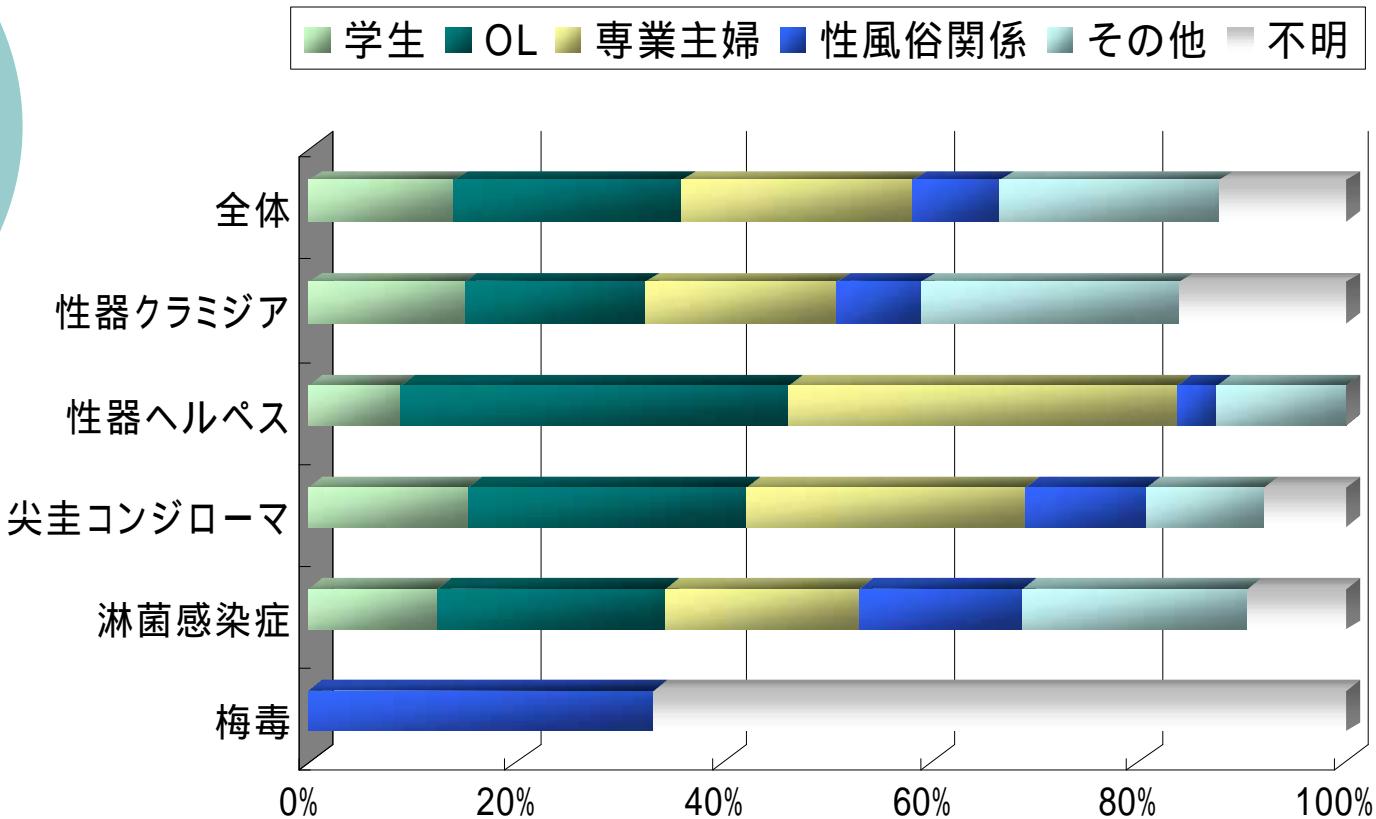
2008年3月



- ◆性器クラミジアは全体の年齢分布とほぼ同様
- ◆淋菌感染症は他の疾患に比べ10歳代、50歳以上の年令が多い
- ◆性器ヘルペスも50歳以上が多い

6.職業

2008年3月



- ◆性器クラミジアは全体の職業分布とほぼ同様
- ◆性器ヘルペスはOLや専業主婦で75%を占める
- ◆淋菌感染症は他の疾患に比べ性風俗関係の職業が多い



7.まとめ

- 疾患数は310～465例で、性器クラミジアが毎回ほぼ60%を占める
- 近年淋菌感染症がやや増加傾向
- 混合感染率は3～6%で、種類は多様化
- 淋菌感染症は低年齢化、高齢化

8.対策

- 幅広い持続的な疫学調査を行う
- 啓発活動を行い正しい知識と予防法を周知徹底させる
- 母児感染の予防